



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyoukai.com

http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

国際交流事業 既植林地を訪ねて

友愛植林地視察訪中報告

赤土の山肌・荒野は緑におおわれて―黄岡市武穴

急斜面にオレシジの木々が濃緑の葉を輝かせ―シキ県

高層ビル・整備された道路―街の発展めざましく

平成二十九年七月二十九日(土)から八月四日(金)の七日間、「友愛既植林地視察訪中」が実施された。これは平成十二年度より行っている「中国における植林活動」の経過を観察し、地域の方々との交流を深める為に行われるもので、国際交流事業の一環として実施され、今回が四度目となる。

昨年訪問予定であった湖北省黄岡市、宜昌市シキ県が、洪水のため訪問できず今年改めての訪問となった。行程の七日間は全て晴天に恵まれ、輝く太陽のなか、緑煌めく木々を見ることができた。六年間にわたり実施したシキ県三峡ダム周辺は、急勾配の中植林した記憶が鮮烈で、忘れ得ない場所である。今回の訪問で、豊かに水を湛えたダムを、急斜面で実をつけるまでに育った柑橘類の木々を確認することができた。それぞれの訪問先では中国語版の『友愛とは』を配布し、大勢の方に友愛の理念を伝え、活発な交流活動を行うことができた。

今回の訪中に参加の川手正一郎常務理事、鶴巻克雄最高顧問から寄せられた感想を掲載し、訪中視察報告としたい。植林時と今年の訪中時の違いをご覧いただきたく特別附録を付した。当時の荒野と視察時の緑を見比べて欲しい。

緑の縁―植林視察を終えて―

日本友愛協会常務理事 川手正一郎

昨年七月の植林地視察 感じましたことは、この十八年間植林を続け本当に良かったと思いました。日本では治山という言葉がありますが、これは山に緑を育み植林を進めることでもあります。

緑は水を生み地球上の全生物にとっての生命であり、幸せと平和のシンボルです。今回の視察で孝感の四〇五年前の植林はまだ幹も細く、これからの生育が

続いて訪れた第一期植林地は、植樹祭の土地と全く別の場所にその後植え替えられたとのことでした。

第一期の植林は二〇一二年二月二十二日。小生の日記によると豪雨の中、山の道路の近く。十時〜十一時記念式典。参加者は大学生一五〇名と関係者五〇名。ぬかるみ、どろんこの中での植林と記してあります。

しかしその後、この地は雨が少なく植樹した木を他細いポプラの苗を植えた。手前の苗は一度は洪水で流されてしまっ



2014年孝感市第三期植林時

遠くポプラの若い木々が見える。葉も小さく、緑も薄いように思えるが、立派に林を構成している



2017年視察時

地区へ移し替えたそうです。

乾いた川の兩岸にポプラが点々と見えましたが、昨年の六月、川が氾濫し多くの樹木が流され、木の大きさは二期目と同じ位でした。アルミの記念碑がまぶしく反射していました。

第三期の植林はその後の気候変動で全く別の地に移植され、その地を訪れましたが一メートルばかりの小さな松が点々と植林され、将来、緑の頼もしい松林になるよう期待しながら現地を後にしました。

武穴地区での視察(附録参照)ここが第三期植林地ですと案内されましたが全く記憶にない。しかし道路から一〇メートルくらい離れたところに持参した当時の写真その儘の記念碑が建っていました。

道路は舗装され周囲は一面の緑、木が大きく山の稜線も見えない。豪雨の直後なので記念碑の近くに水が溜まり近付けない。道路から記念碑の文字が微かに読める。日本友愛青年協会という文字と二〇〇五年三月三日と確かに書いてある。

改めて植林時の写真を見ると竹を植えたのだが、記念碑の周囲は松や雑木、竹は見当らない。地元の人に尋ねると記念碑の周囲の竹は枯れ、松や雑木を植林した。しかし碑の反対側の山は一面の竹林との説明。

車で山の裏側に廻ると寸分の隙間もない鬱蒼とした竹林。竹を植えた証を見て何となく安堵した。



2017年

孝感市の現場は、すべてステンレスの看板が建てられている。苗は三年間で六センチの太さに育った



生の日記
気温二度 寒い。

九時三〇分〜十時三〇分 武穴第三期植樹祭式典。会場には地元の小中学生と近隣の人達一千名ぐらゐ。笛や太鼓の大楽団で出迎えてくれた。全青連の代表が日本から七十三歳の老人が代表としてやって来たと挨拶。私を紹介した。小生、歳はとっても心は老いず、自強不息、これからも植林を通じ日中友好を進めたいと述べた、と記してある

苗は育っているものの、土は乾いて砂のように手からこぼれる。更に育って保水力が増す事を祈る

友愛時評

▼北朝鮮の挑発行動が続いている。金正恩朝鮮労働党委員長の独裁の下、ひたすら核・ミサイル開発に突っ走る北朝鮮を「狂った国」と思う人も多いだろう。▼

ところが、筆者が大学で講義している国際関係論(IRR)の議論に即してみると、金正恩氏の行動は「合理的」という評価になり得る。国際社会における国家の行動原理は「国益」の実現であり、その最たるものは「国家の生存」である。IRRが説くこの教条は、そのまま金正恩氏の行動原理に当てはまる。▼また、IRRの議論では、核兵器こそが第二次大戦後の「長い平和」をもたらしてきたという見方が有力である。地球滅亡すらもたらしかねない破壊力を持ち合っ

て対峙する「恐怖の均衡」は、国家間の軍事・外交ゲームを一変させる。リビアのカダフィ政権が崩壊したのは二〇〇三年に核開発を断念したためだ、という北朝鮮の抗弁も理屈は通っている。▼米国のリアリストの中には、核兵器の持つ圧倒的な抑止力という観点から、日本やドイツを含め、より多くの関係国が核武装した方が地域の安定がもたらされると説く者すらいる。▼

そこまで行くと、「リアリスト」たちの議論は全く現実感に乏しくなる。▼トランプ米大統領は、金正恩氏を「核兵器を持った狂人」とこき下ろしたが、奇妙な髪形も含め、両者の共通点を世界中の人々が感じている。両者の対立を、日本や韓国といった自らの安全保障を他者に委ねている国民は、固唾を呑んで見守る他に、術はないのだろうか。(ヒゲ)

シキ県での視察写真附録参照
帰州県人民政府の建物から歩いて一〇分程のところが第六期シキ県植林地。稀州県羅書記の案内で記念碑の前に立った。雨の中の植樹祭でした。

眼下の長江を見下ろしながら、四十五度もあるかと思われる急斜面で怯えながらオレンジの木を植林したことを思い出しました。

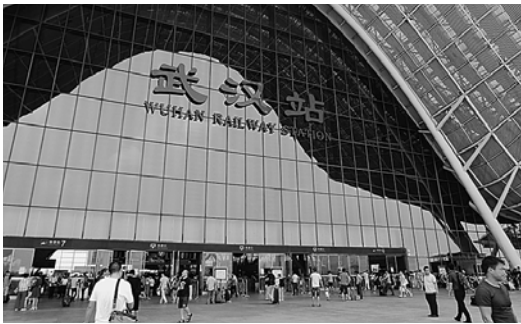
羅書記も当時出席していた賑やかな錦州中学校での植樹祭が頭を掠める。周囲の景色も見覚えがある。

ここは二〇一〇年十二月十三日の植林。七年前だが斜面のオレンジも三〇四メートル位に育ち、しっかりと根付いている。今秋の豊作を思わず祈念した。

続いて第五期の植林現場へ。車で一〇分ぐらいの長江河岸の道路に面した小高い丘の中腹に記念碑があり、周りは輝く緑。当時の写真からは全く想像もつかない森林となった。

ここも長江に面し一歩踏み外すと長江に吞まれる急

昨年洪水で来られなかった武漢の駅。立派な駅舎が出来、人々の往来も多い。新幹線も走っている



峻な勾配。オレンジの植林。断崖絶壁にオレンジの緑が光っている。どうもぎ取るのか気になる。

昼食を摂るため高台にある人民政府招待所へ行く道すがら、第六期、第五期植林地を見下ろすと、はるか長江の水際まで黄土にオレンジの緑が力強く踏ん張っている。そんな光景に逞しさを感じ、思わず頑張れとエールを送った。

第四期は招待所を一〇〇メートルばかり登った山の中腹にオレンジの樹々が連綿と連なっていた。

第二期、第三期は対岸から遠望する予定だったがガイドが失念。この二箇所は長江から絶壁の階段道を登り、ようやく現場に辿り着いた記念の地。残念だが致し方ない。

シキ県第一期
二〇〇六年三月十七日
(金) 小生の日記

三峡ダムを眼下に素晴しい景観。鳳凰山という観光

街のあちこちに掲げられている、国家が提唱する精神的な生活目標。「友愛(互助)」の文字が見える



名所の近くでの植樹祭式典。中学生七〇〇名の他、多数の参加者。笛、太鼓、獅子舞での賑やかな出迎えに感謝。ここは王昭君(中国四美人)や屈原(詩人)の出身地。眺望絶佳の植林現場。植林冥利とはこのことか。生きていて良かった。感動と書いてある。

韓林さん(現在シキ県人民政府民生局長)多忙な中わざわざ駆け付けてくれ、一〇年ぶりの対面。忘れられない幼馴染みの感じで説明しながら先導してくれた。植林は心と心を繋ぐと強く感ずる。

現場でも碑を見るまでは全く思い出せず、暗い緑の山頂の小径をひたすら歩く。緑の空き間から三峡ダムの堰堤が見え隠れする。ここがシキ県第一期植林地か。周囲は全て緑。十一年前の記憶不透明。韓林さんはじめ地元の人々の説明でようやく得心した。

植林当時の写真がなければ

武穴市大法寺鎮李辺村は村全員が李さん。老人の館には、夫婦揃って六五歳を迎えたお祝いの写真が



ば合点できない風景ばかり。植林の醍醐味と有難さ、そして現地の人々との交流、案内していただいた多くの方々との触れ合い、全青連陳書記の厚徳載物の言葉に感佩、心に国境はない。緑の緑、植林は日中友好の絆。

全行程を案内してくださった全青連の楊さん、武漢の程さんに心から御礼を申し上げます。

有難うございました。

北京二十一世紀飯店ロビーには、三カ国語の友愛国際写真コンクリのポスターが展示されている



二〇一七年 中国植林視察の旅

日本友愛協会最高顧問 鶴巻克雄

湖北省を再訪(写真附録参照)

昨年訪問する予定であったが大雨、洪水で現地入りできなかった湖北省の孝感、武穴、宜昌(シキ県)の植林のその後がどのようになっているのかを見届けるために湖北省を再訪した。

武穴の現場・活着率良好
武穴近郊で洪水によって一部流されてしまい、補植が必要と思われる地点があったとはいえ、総体的に活着率は高く、成功している

と宣言しても良いと考えられる。

ポプラ、竹、松などの植栽に覆われ、青々とした樹林で遠方の見透視が出来ない地点では、本当にここがあの見渡す限りのハゲ山だった場所と同地点なのだろうかとかと川手氏と話し合っていた。そんな見違えるような地点でも記念碑の存在が同地点であることを立証してくれた。

昨年視察した地域と比べると、湖北省での記念碑は見つけやすい場所に建てられていた。

シキ県・六期に及んだ現場
シキ県は三峡ダムで有名、ダムの上流の山間部で二〇〇〇三〇〇メートル下を流れる揚子江に向かっての急斜面に植林したのだがよくぞ転落などの事故を起こさなかったものだ、今に

して思う。

植えた木がオレンジやミカンなどの換金植物であったこともポプラ、竹、その土地に適合した種類の木が

あの細い枝が、大地に根を張るとこれ程までになるのかと、目を見張る思いがした。見事な林に成長



2017年



2013年

孝感市の植林当時(右側)と現在(左側)



植林現場近くでは、保水力が上がったためか、作物が栽培され始めた。ピーナッツも育っている



2013年



ポプラの林には、実が落ちていた。この実が芽を出し、自然循環として林が育っていく



2013年

シキ県を傘下におさめる宜昌市はミカン、オレンジなど柑橘類の産地であることを空港や駅などでアピールしている。道路にテントを張り、オレンジをバラ積みにして半年間寝泊まりしながら販売しなければならぬ状況であったが道路が良くなり流通が改善した現在ではそんな風景は見ることはないとのことだった。

谷間に点在する農家と思われる石積み家は見かけられ証と感ぜられた。

十年の空白を感じない友情を交歓しあえたことは人と人の絆も樹木の生長に負けずに大きく成長を続けている証と感ぜられた。

シヨベルカーで深い穴を掘り、墨の粉等を入れ、根付くことを祈って植えた苗。根もない状態だった

友愛国際写真コンクール

銀座にて作品展開催

三年間の優秀作品を一堂に会して

八月十七日(木)〜二十四日(木)までの八日間銀座の「ギャラリー・アートグラフ」において「友愛国際写真コンクール」の作品展が開催された。

これは過去三回の優秀作品約八十点を一堂に会して展示したもので、いずれ劣らぬ力作が集まり、迫力のある展示会となった。

今回の展示会は初めての試みで、審査員の新藤健一さん、石渡菜々子さんが中心となり、企画運営し実現の運びとなった。

天下の商業都市一等地の銀座には多くのギャラリーがあり、銀座のギャラリーでの展示会は、誰もが憧れるところである。この銀座での展示会開催が実現したのは、ギャラリーの代表で

作品展にご協力くださったギャラリーの代表柳澤由利さん(左)と鳩山由紀夫理事長



ギャラリー・アートグラフでの展示の様子。明るい室内で作品も映える。三年分が一同に会した



流石銀座、連日多くの方が訪れてくださった。旅行中の外国の方も多く見受けられた



ある柳澤由利さんのご協力をいただけたからに他ならない。柳澤さんは、写真家としての会社も経営されており、若手育成にも力を入れている。このギャラリースペースも活躍の場と機会銀座の表通りからほんの少し入った所にあるギャラリー・アートグラフは気軽なスペースとして人気をと、提供されることも多い。そんな銀座での開催は大いに功を奏し、期間中のべ六〇〇人をこえる来場者があった。写真コンクールの今年の応募締め切りは九月二〇日。詳細はHPを。三年分の上位入賞作品を改めて鑑賞する鳩山由紀夫理事長。今年の応募に期待が寄せられている

夏も終わりに近づいた八月二十六日(土) 鳩山友愛塾の修了生が集い「友愛サロン」において暑氣払いの会を開催した。

久しぶりに集まった面々は、井上和子塾長を囲み話しが尽きない様子で、アツという間の楽しい四時間を過ごし、午後五時一次解散とした。

当日は鳩山由紀夫理事長ご夫妻も参加され修了生たちと飲み、語り、食べる和やかな時間を過ごされた。

塾修了生のこれからの発展、鳩山友愛塾の再開など前向きな話題も多く、集まった人数は若干少ないものの、元氣さと情熱の熱さは、当日の暑さを凌ぐ勢いだ。

鳩山友愛塾 暑氣払いの会

この日用意された食べ物、宮城県特産の岩牡蠣、ホタテ、鮭、ホヤなど。現地直送ならではの新鮮で美味しい食べ物大量に提供された。これは、宮城県で活躍する公益財団法人モリウミアスの立花代表のご尽力もあり、宮城復興支援の

井上和子塾長も笑顔で挨拶。「お会いできるの楽しみにしていました」の声に、拍手が湧いた



意味も含め、修了生に味の紹介となった。

また、この日の二次会用に、井上塾長が用意してくださった金一封は、全員の総意で、塾長からモリウミアスに寄贈された。

早い次回の再会を約し、会は九時過ぎ、解散した。

鳩山理事長が上梓された本がプレゼントされ、卓を囲みながらサインをいただく参加者



友愛サロンは、特設の宴会場に。卓を囲みながら話が弾む。鳩山由紀夫理事長ご夫妻もご参加

第十五回平成二十九年文部科学大臣賞 けん玉ペインティングコンテスト表彰式開催

池袋サンシャインシティ噴水広場に力作が勢揃い 国際色も豊かに

八月二十七日(日)今年も「けん玉ペインティングコンテスト」の表彰式が、池袋サンシャインシティ噴水広場で開催された。

三千五百点に及ぶ応募作品の中から選ばれた二〇点が受賞対象となった。

海外からの応募も増え、第十五回と歴史を重ねた本コンクールは、矢島稔審査員長(元多摩動物公園園長)の「ペインティングはけん玉に面白い魅力を加えた」の言葉の通り、新しいけん玉の可能性を教えてくれた。

挨拶に立った松永義希会長も、年々盛んになるけん玉熱に加え、ペインティングも皆さんの注目を集め、会場の大型ビジョンには、受賞作品の全てが映し出され、広い会場を彩っている



協会として嬉しい限りですと語った。

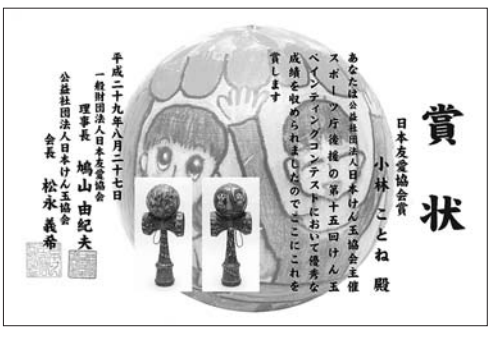
日本友愛協会賞を受賞したのは、小林ことねさん(九歳)、けん玉全体を一本の樹に見立て、繁る葉の中に家を描いた。「ツリーハウスです」と英語で答えてくれたことねさん。けん玉の柄の部分には、ツリーハウスに上がるための階段も描かれており、木の枝、葉もしつかりとした筆致で描

小林ことねさんご家族。夏休み最後の日曜日は、ことねさんの授賞式と嬉しい出来事で上京された



作品がカラーで印刷されているけん玉協会独自の表彰状。きめ細やかな発想と準備の緻密さが凄い

賞状



かれています。

当日は家族総出で、ことねさんの表彰式に出席。最後には全員が笑顔でカメラに納まってくれました。

当日は引き続き同じ会場で、小学生によるけん玉技術選手権大会が行われた。

賞状とメダルを手に川手常務理事と記念撮影。こちらの質問には、ハキハキと答えてくださった



小林ことねさんの作品。けん玉を一本の木に見立てて、皆が笑顔で住むツリーハウスを描いた



若人の集い

兵庫県神戸市 劉幸宇

数年前のことになります
が、縁あって私が「大学コ
ンソーシアムひょうご神
戸」主催の「学生国際交流
ツアー in いえしま」の
実施に係りました。

このツアーには、中国人
留学生十六名を含む兵庫県
下十一大学の学生五十一名
が参加し、企画、実行の一
部始終を見ていた私にとつ
て、国境を越え、所属大学
を越えた若者のエネルギー
こそが、未来へつながる

「友愛」の心ではないかと
感じた次第です。
いささか古いニュースで
はありますが、『友愛』読者
の皆様にお伝えしたく、写
真を添えて投稿させていた
だきました。

また、同センターの萩本
義郎所長より「瀬戸内海環
境保全」の講演も行われた。
参加者らは、美しい瀬戸内
海の絶景を堪能すると同時

二〇一四年八月三〇日
九月一日、この活動の企画
・運営は神戸学院大学学生
支援事務室が行い、瀬戸内
海に位置する家島町西島の
「いえしま自然体験センタ
ー」を拠点に、三日間にわ
たつて豊富かつ多彩な活動
を展開した。

その内容は海水浴、カヌ
ー・カヤック体験、キャン
プファイヤー、バーベキュ
ー、飯盒炊爨、釣大会、星
空観望、島探検、貝の細工、
焼板作成、海洋生物観察等
に及んだ。



世界の若者が力を合わせて

楽しいキャンプファイヤー パンダも飛び入り



に、家島の環境保全対策を
理解し、自然環境を守る意
識を高めた。なお、最終日
には同センター敷地内でク
リーン作戦も実施した。

三日間で、十一大学の学
生が盛りだくさんな交流を
展開し、大学・国籍の枠を
超え、「我らは皆地球人」と
いう意識で友情を育んだ。

天候にも恵まれ、眺望絶佳
の瀬戸内海の自然景観の観
賞と体験が出来、大変有意
義な活動となった。

屈託のない笑顔で釣りに
興じる若者達を見ている
と、自然体で友愛の精神を
実践していると感じられ
る。これからも世界を繋ぐ
友愛の精神を、伝えるべく
尽力したいと思った。



武漢駅構内の様子。様々な型の新
幹線が並び、エスカレーターが整
備された、近代的デザインの駅。
大勢の人が利用している

ところ変われば：で、当
たり前なのでしょうが、ビ
ックリしたこと、感動した
ことなど、番外編としてこ

トピック..... 訪中番外編

植林地の視察で、四十度
を超える暑さの中、元氣い
っぱいな中国を色々みせて
いただきました。



孝感市の朝。通勤の人が動き始め
た頃肉屋の店先で。豚の足をパー
ナーで炙っていました。足には蹄
もあって：美味しそうな香りが



池に向かうアヒルの親子。あまり
の可愛らしさに思わずシャッター
を。植林の効果は、水辺の鳥が飛
来するまでになった。孝感市二期

すが、ホームページ上では、
カラーでご覧いただけます
ので、是非一度アクセスし
てみてください。

トピック..... 訪中番外編

の欄をお借りしてご紹介さ
せていただきます。
カラーでお届け出来ない
のは、残念至極ではありま



写真では解りにくいでしょうが、
セミの大群です！ 一本の木にこ
んなに沢山のセミがいるのを初め
て見ました。山峡ダム六期現場で



こちら上と同じ池のほとり。水
牛の親子が水を飲みます。近くの農
家が飼っているものでしょう。そ
れにしても長閑な風景です



孝感第三期現場で。地元の方が担
いでいるのは、焚きつけ用の松の
落ち葉です。器用に一本の棒で束
を串刺しにして運んでいました



料理に添えられていた野菜の細工
物。鶴、鳳凰などは良くあります
が、こちらは赤い瓢箪に緑色のキ
リギリス。武漢のホテルでの夕食

時事川柳

服部迪夫 作

—夏ロマン二題—
パンダ派とカワウソ派に割
れる夏
—引退—
さまざまな伝説残し去るボ
ルト
—記録更新—
長雨が今年の夏の代名詞
—花咲徳栄高校—
しんがりで優勝旗にも名を
刻み
—勝ち星の数白鵬関—
前人の前人未踏塗り替える
—ヒアリ禍—
忠敬も計れなかった蟻地獄
—天才群像—
プロ棋士の思考回路を診て
みたい
—天才の仲間入り？—
趣味の欄将棋加えて悦に入
り

機関紙『友愛』にご投稿ください！

機関紙『友愛』に皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボ
ランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも
結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿
ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。
締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月が
ある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。
要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
写真：紙焼き（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。

電車やバスの乗客の多く
がスマホに夢中になっている
。歩きながら、信号待ち
で、地下鉄の上り下り、レ
ストランで、スマホに向き
合っている人が増えた。
最新の技術が若い人を蝕ん
でいるように映る。
オリンピックを控え、おも
てなしの心が失われないか
心配。
挨拶、字を書く、本を読む、
笑顔と感動。そんな言葉が
走馬灯のように脳裏を過
る。不易流行を問う。(K)
◆今、河島英五さんの歌う
「時代おくれ」にはまってい
ます。作詞は阿久悠さん
で、うなる程上手い日本語
で綴られています。河島英
五さんは彼自身が作詞、作
曲した「酒と泪と男と女」
で有名ですね。私が河島英
五さんを知ったのは、数十
年前「てんびんばかり」と
いう曲をテレビで初めて披
露した時です。全身に鳥肌
が立つということをした時
初めて体験しました。残念
な事に、二〇〇一年に四八
歳で亡くなってしまいました
が、彼も彼の曲も、今も
多くの人々に慕われています
。是非、機会があったら
「てんびんばかり」を聞い
てみてください。私は、言
葉の不思議さ、人の心の不
思議さ、生きていくことの
大切さと難しさ、様々なこ
とを教えてもらったと思い
ます。その後「反原発」の
歌詞を加えたこの曲も発表
しています。こちらも是非
一度、聞いてみてください。
考えさせられます。(も)

編集後記